

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	ドウエシューラ学区の対象校全 12 校に学校図書室及び図書委員会が設立された。図書室設備が充実し、図書委員会が図書室管理運営力と利用推進力を習得、向上することで、生徒が本を利用して学習できる環境が整い、読書と自習の習慣が育まれ普及した。また、各対象校でメンバー選考方法を含め図書委員会運営システムが改善され、図書委員会活動が毎年引き継がれ持続発展していく基盤ができた。 第 1 年次に引き続き第 2 年次もコロナ禍による大幅な活動制限がある中で、対象校全 12 校の図書室週間利用者合計数は 696 人となり目標数 1200 人の 58%に留まったが、第 1 年次より 284 人増加した。ブックレビュー提出数は、対象校間でばらつきがあったが合計 735 通となり、第 1 年度提出数 (210 通) から 3.5 倍増加した (目標 : 1.5 倍以上)。 対象校全 12 校の各図書室にパソコンとプリンターを一台設置し、パソコン操作技術指導を行った結果、全対象校の図書委員会生徒ほぼ全員がパソコン知識と技能を身につけ、図書活動への活用やリサーチができるようになった。各対象校で他の生徒に指導できる生徒数は、平均 5.75 人 (目標数 : 各対象校 6 人以上) となった。指導を受けた全生徒 (図書委員会生徒以外の生徒を含む) の 90%が、州教育省が認定するパソコン操作技能テストに合格した (目標合格率 : 70%)。 ・ 図書室の設備が蔵書や備品の補充により充実し、また、パソコンを利用して学習や調べものができる環境になる。 ・ 図書委員会の図書室管理・運営力が育ち、運営システムが各校の環境に合わせて確立・改善されることで、図書委員会活動が毎年引き継がれ持続発展していく基盤ができる。 ・ 校内で読書習慣が普及し、生徒による図書と図書室の利用が促進され定着する。 ・ 図書委員会生徒はパソコン操作技術を習得し、それを図書運営に活用し、また、他の生徒たちに教えられるようになる。
(2) 事業内容	1. 学校図書室の設備の充実 対象校 : 12 校 (小中学校 8 校、高校 4 校) 生徒数 : 約 6,008 名 1-1 各対象校の図書室に蔵書を購入・補充し、必要な備品を配置して図書環境の充実を進めた。(各対象校で補充した蔵書数 : 170~600 冊) 1-2 日本国内で英語の本を収集、分類、梱包し 10,644 冊を 4 月に南アフリカに輸送、6 月 18 日に TAAA 南ア事務所に到着した。南ア事務所で本の分類整理を行い、各対象校のレベルとニーズに合った書籍を配布した。 1-3 対象校からリクエストのあった英語および現地語 (ズールー語) の書籍を現地購入し、配布した。(各対象校 30 冊~78 冊) 1-4 各対象校の図書室にパソコンおよびプリンターを一台ずつ購入・設置した。図書室をリソースセンターとして利用できるよう設備と管理体制を整えた。 2. 図書委員会の図書運営・管理能力および図書推進能力の育成 司書教師 : 24 名 (各校 2 名) 図書委員会生徒 : 96 名 (各校 8 名) 2-1 各対象校で新規を含めた図書委員会メンバーを再登録し、委員会内で 1 年次に設定した図書室管理・運営システムを点検し、話し合い、改善を行った。改善策の一つに今後のメンバー選考の方法

	があり、毎年メンバーの半数以上が翌年の継続生徒になれるよう最高学年以外の学年生徒の参加数を増やすこととなった。 2-2 司書教師対象の研修会を開催し（6月9日）、基礎的な司書知識の復習・再確認、他校教師との経験共有を行った。2年次事業開始時に対象校半数の6校で前年度からの司書教師の異動があったため、研修会では主に新任の司書教師を対象として基礎的な図書室運営について指導した。また、生徒の図書室利用・読書促進への具体的な取り組みについてもアドバイスをを行った。郡教育省 ELITS 地域担当者も出席して司書教師を激励、情報提供をした。 2-3 TAAA 図書指導員は、図書委員会生徒に書籍の受け入れ登録作業、本の貸し出し方法や整理など、基礎的な図書室運営の仕方を指導した。 2-4 図書委員会生徒が中心となって校内で図書室利用促進活動を行い、TAAA 図書指導員は各対象校を巡回訪問して活動をモニタリングし、アドバイス、サポートを行った。 2-5 各対象校で新学年開始後 2021 年 2 月下旬に（コロナ禍のため、学校開始が 2 月 15 日となった）、TAAA 指導員の指導の下で、図書活動を振り返り、図書委員会生徒の新旧交代と引き継ぎを行った。11 月末に一年の活動の振り返りと翌年 1 月の引き継ぎに向けた準備を行った。事業延長期間中の 1 月中旬に 2022 年度の新学年が始まり、新年度図書委員生徒が選定された。メンバー選定改善策により（2-1 参照）、各対象校の 2022 年度図書委員メンバーは、前年度からの継続生徒が半数以上を占め、速やかに図書室管理・運営システムの点検と改善が行われた。 3. 読書習慣を育む 3-1 TAAA 図書指導員は対象中学高校で図書委員会生徒と共に英語の本の紹介や読書推進活動を行った。対象小学校では低学年担任教師が図書を利用して生徒への英語の本の読み聞かせと音読指導を行った。 3-2 生徒が書きやすいブックレビュー用紙を作成して各対象校に配布し、読後にブックレビューの提出を促したところ、1 校を除く 11 校から提出があった。司書教師と TAAA 図書指導員がチェックをし、コメントを入れるなどして生徒に返却した。 3-3 各対象校では司書教師の監督の下、ブックレビューコンテスト、音読イベント等の図書イベントが 1 回以上開催された。また、生徒たちはポスターや詩の制作をして読書推進を行った。予定していた合同図書活動発表会の開催はコロナ禍の長期化で集会活動が制限されたため中止とした。その代わりとして、各対象校内で 11 月中旬から下旬に図書委員会生徒の活動の振り返りと成果の発表会を催し、年間を通して着実に活動を進めた図書委員会生徒にメダルの贈呈を行った。また、延長期間の 2022 年 2 月下旬に、各対象校内で年間活動計画や抱負について話し合う会合が開催された。 4. パソコン技術指導 対象校：12 校（小中学校 8 校、高校 4 校）司書教師：24 名（各校 2 名）図書委員会生徒：96 名（各校 8 名） 4-1 司書教師を対象にパソコン操作技術指導の研修会を開催し（3 月 3 日）、活動内容と進め方を確認し、パソコンの基礎的な使い方を指導した。
--	--

	4-2 パソコン指導専門員が各学期に1回、各対象校の図書委員会生徒にパソコンの基礎操作技術を指導した。TAAA 図書指導員は、対象校を巡回訪問してパソコン基礎技術指導を継続して行い、図書委員会生徒が技術を図書室運営に活用できているかをモニタリングした。第2学期に、知識と技術習得を確認するテストを行い、第3学期と第4学期には、書類作成の実践としてパソコンで自己紹介エッセイや履歴書を作成、印刷して提出させた。延長期間中の2022年第1学期には、書籍の受け入れ登録台帳を作成した。パソコン操作技能テストに合格し、すべての課題を提出した生徒に修了証書を授与した。 4-3 第3学期以降、司書教師の監督の下、技術を学んだ図書委員会生徒が図書室で他の生徒を指導し、TAAA 図書指導員が活動をモニタリングした。2022年度第1学期に、指導を受けた全生徒に対し知識と技術習得を確認する技能テストを行った。
(3) 達成された成果	目標1：図書室の設備が蔵書や備品の補充により充実し、また、パソコンを利用して学習や調べものができる環境になる。 (1) 図書室環境改善 【成果】対象校全12校の図書室に蔵書と図書備品が補充され図書環境が充実し、リソースセンターとしての機能も備わる。 【指標】各対象校のニーズに合った蔵書（現地購入を含む）が必要数補充され、必要な図書室備品が設置される。各対象校に設置されたパソコンとプリンターが適切に管理され、生徒たちがパソコンを使って調べものや学習ができる環境になっている。 ELITS 担当員による事業評価（参考資料②）では、対象校全12校の図書室環境改善における総合評価の平均点が5段階評価中4.6と高得点となり、TAAA 側のモニタリングからも指標は概ね到達でき、各対象校でリソースセンターを兼ね備えた図書室環境が整ったと考える。第1年次に学校側である程度の蔵書を準備したこと、棚等スペースに限界があること等の理由により、今年度は配布を控えめにしたため、TAAA から各校へ配布した書籍数は、申請時の予定数（500冊～800冊）より少ない170冊～600冊（平均448冊）となったが、TAAA 南ア事務所では必要に応じて補充できる蔵書を揃えており、当事業終了後も郡教育省 ELITS と協力して各対象校のニーズに合った蔵書の充実に協力していく予定である。 （参考資料①②参照） 目標2：図書委員会の図書室管理・運営力が育ち、運営システムが各校の環境に合わせて確立・改善されることで、図書委員会活動が毎年引き継がれ持続発展していく基盤ができる。 (1) 図書室管理・運営システムの改善 【成果】全対象校で第1年次に定めた図書室管理・運営システムが、各校の状況に見合い持続発展性を高める形で改善される。 【指標】各校の図書委員会で現行の図書室管理・運営システムの要改善点が確認され、図書委員会規定・方針書が書き直される。新しい規定・方針書を図書委員会生徒と司書教師が確認し、それに基づいて効果的に図書室が運営・管理されている。

	対象校全 12 校が TAAA 図書指導員のモニタリング評価に合格し、総合評価の平均点は 4.7（5 段階評価）と高得点だった。 「定期的なミーティング開催」は全対象校で 4 点だった。これは、コロナ禍での分散登校や司書教師の多忙で、会合の招集が徹底されていなかったことが主な原因なため、郡教育省 ELITS 担当者及び TAAA 指導員は、会合の日時を事前に決定・明記して委員会メンバーに周知させるようアドバイスし、全対象校の司書教師は了承した。（参考資料③参照） (2) 司書教師の図書運営・管理力向上 【成果】司書教師が基礎的な図書室運営・管理のための知識と方法を確実に身につけ、実践している。 【指標】①対象校全 12 校の司書教師全 24 人が、ELITS 地域担当者のモニタリング評価に合格する。②図書室の運営・管理、図書委員会生徒の活動監督を効果的に行っている。 ① 対象校全 12 校の司書教師 23 人（1 名死去）が、ELITS 地域担当者のモニタリング評価に合格した。（参考資料②参照） ② コロナ禍での活動制限に過敏になり、図書委員会生徒への活動監督において消極的になった司書教師が一定数見られたが、多数の司書教師は図書活動の重要性を理解し、図書室運営・管理力を習得し、コロナ禍で様々な制約と問題があるなかで、各校に合ったそれぞれのやり方で図書室運営と活動監督を行っていた。（参考資料③参照） (3) 図書委員会生徒たちの図書室運営・管理力と広報・指導力の向上 【成果】対象校全 12 校の図書委員会生徒全 96 人が基礎的な図書管理・運営のための知識・方法を習得し、司書教師の監督下で実践できるようになる。また、他の生徒たちに図書室の利用法を教え、読書と図書室利用を促すことができるようになる。 【指標】①各校の図書委員会生徒全員が TAAA 図書指導員による実践テストに合格する（合格点 70%）。②司書教師の監督下で図書室の基本的な運営、管理を行っている。③週に 1 回以上、全校生徒を対象とした図書室利用促進活動をしている（朝会での図書室紹介など）。 ① TAAA 図書指導員による実践テストを受けた図書委員会生徒 87 人中全員が合格した。 * 実践テスト開催時に欠席もしくは転校でテストを受けられなかった生徒が 9 人いた。 ② 全体的に図書室の基本的な運営、管理（図書室内の清掃、書籍の受け入れ登録作業、デューイ十進法を用いた蔵書の分類、本棚の書籍の整理、本の貸し出しと返却作業など）を司書教師の監督の下で実践していたが、更なる経験や、司書教師からの応援を必要とする学校が 4 校、チームワークとやる気にかけている学校が 1 校あり、改善を求めた。 ③ 対象校全 12 校中 9 校が週に 1 回以上、朝会での英語の本のリーディングやブックレビューの呼びかけ等、全校生徒を対象とした図書室利用促進を行った。3 校は週 1 回以上の頻度ではなかったが、図書室利用と読書促進活動が継続的に
--	--

	行われていた。該当3校には、頻度を高めるようにアドバイスをした。 (参考資料④参照) ・ コロナ禍での分散登校や活動制限が続く厳しい状況下で、当会は、持続発展性の観点から、今後の図書室運営の柱となる図書委員会の育成に注力した。その結果、多数の図書委員会生徒たちが非常に熱心に活動に携わり、司書教師の取り組みが不十分な場合でも、自主的に図書室の運営・管理に責任を持って取り組んでいた。また、図書活動推進のリーダーの自覚をもち、継続して校内での他の生徒への図書室利用と幅広い読書の呼び掛けを行っていた。 (4) 引き継ぎによる図書委員会活動の継続 【成果】 卒業する委員会生徒（および諸事情で新年度は続けられない生徒）を補充するため、新規メンバーが入会することで、図書委員会生徒数（8名）が維持され図書委員会活動が継続できる。引き継ぎを行うことで、新規メンバーは事前に活動内容が把握でき、新年度から持ち上がりの生徒と一緒に図書委員会活動ができるようになる。 【指標】 ①各校で新規メンバーの80%が、TAAA 図書指導員による引き継ぎ実践試験に合格する。②各校で新年度から新規メンバーを含めた8名の図書委員会生徒が滞りなく図書活動を行っている。 ① 対象校8校で図書委員会新規メンバーの80%が引継ぎ試験に合格した。4校は合格率が75%だった。不合格だった生徒には、TAAA 図書指導員が個別指導を行った。 ② 各校で新年度（2021年）から新規メンバーを含めた8名の図書委員会生徒が第1年次事業を引き継いで活動を開始した。新規メンバーが多数の学校が多く、途中でメンバーの入れ替えや、転校などで6人や7人体制になった学校もあり、活動の定着に少し時間がかかった。2022年度開始後には新規メンバーの補充をし、8名が滞りなく図書活動を行っている。 (参考資料⑤参照) ・ 引き継ぎ実践試験は本来、第2年次の図書委員会メンバー登録が済み、活動が開始された直後に行う計画であったが、学校開始日の遅れや分散登校等で時間に制限がある中で生徒の図書室運営の知識と方法の習得期間を確保し、3学期初め（8月）に行った。 ・ 事業延長期間中は、小学校7年生で図書委員会活動に携わった生徒の数が、新年度進学先の高校で委員会に参加するなど、対象校間を跨いだ図書活動の継続が見られた。 目標3：校内で読書習慣が普及し、生徒による図書と図書室の利用が促進され定着する。 (1) 図書室を利用した自習・読書習慣の促進と定着
--	---

	【成果】生徒たちが本に親しみ、図書室を利用した自習や読書の習慣が促進され定着する。 【指標】①各対象校で下記の表に記された図書室利用者目標数以上の生徒が図書室を利用ようになる。②各対象校で、一年間のブックレビュー数が第1年次と比べ1.5倍以上になる。 ① 図書室週間利用者数（各対象校の図書室利用者帳に基づく）は、対象校全12校とも各目標数に達しなかった。12校の合計利用者数は696人で、目標数1200人の58%にとどまったが、第1年次の利用者412人からは284人増えた。感染を恐れて図書室利用者帳に記帳しなかったり、一度に多くの生徒が入室して記帳できなかったりなど記帳漏れも多かったため、各対象校の実際の利用者数は、図書室利用者帳に基づいて把握した人数よりも多いと考えられる。当事業終了前に、全対象校の図書委員会に今後の記帳漏れ対策について話し合うようにアドバイスをした。（参考資料①参照） ③ 第1年次はブックレビューの提出が対象校12校のうち半数の6校からのみであったが、2年次は1校を除く11校から提出があった。昨年度提出があった学校では1.2倍から4.8倍と増加が見られた。対象校全12校の提出合計数は735通で、昨年の210通から3.5倍となった。（参考資料①参照） ・ 今年次もコロナ禍による分散登校や活動制限が大きく影響した。また、第1年次の時よりも、コロナ感染で病欠する生徒数が多く、また地元住民から死者も相次いだため、コロナ感染に対して非常に神経質になり図書室利用を控える生徒もいた。 ・ 図書室利用者数には反映されていないが、今年次は、対象小学校の中には低学年の生徒用に教師がまとめて本を借り、その日のうちに返却するケースや、対象高校では教師が参考書を借りて教室で利用するケースが増えた。 ・ 事業終了時まで多くの生徒が読後にブックレビューを書く習慣を身につけた。一方で、司書教師の監督・指導力不足や、コロナ感染に神経質になり協力的でなかったことが原因で、提出数が0～2通の学校が3校あった。（3.（2）特記事項参照） ・ 各対象校で行われた図書推進イベントは読書へのモチベーションを高めるのに効果的だった。しかし、図書室を利用する生徒はリピーターが多いため、校内の生徒全体での図書室利用促進を強化していくことが今後の課題と考え、図書委員会に対策を話し合うようにアドバイスをした。 (2) 読書およびブックレビュー作成による英語力の向上 【成果】生徒の英語の読み書き能力が向上する。 【指標】全対象校の各学年（小学校1年～高校3年）生徒の50%が、第4学期（学年末）の英語テストに合格する。 ・ 全対象校の全69学年中59学年が指標に達成した。小学校7校中3校ではそれぞれ1学年が合格率50%に満たなかった。中高校は5校中4校で50%の合格に満たない学年があった。対象高校全4校で最終学年生がMATRIC合格率50%以上に達した。（参考資料⑥参照）
--	---

- ・ 2 学年とも合格者が 50%に達しなかった Duduzile 中学校では、成績の詳細表の中で圧倒的に 40－49%の生徒が多く、これらの生徒の学力の底上げが急務となっている。校長との協議の中では、今後も図書室の本を利用して生徒の読み書き能力を向上していきたいとの話があった。他の対象校においても、合格レベルに達しなかった学年の生徒に対しては、図書室を利用した集中的な読み書き指導を継続して行うようアドバイスをした。
- ・ 司書教師へのアンケートからは、生徒の読書への興味・関心が深まり、それが読解力、語彙力、総合的な学力向上につながっていることが窺える。(参考資料①参照)
- ・ ブックレビューの提出が多かった学校の司書教師から、図書室利用により、生徒の読解力、書く力と語彙力が向上しているとの報告があった。対象校校長や郡教育省関係者からも、当事業における図書室利用と読書促進が生徒の学力向上につながってきたとの感謝の言葉をもらった。今後、対象校全生徒の英語力を底上げしていくためには、図書活動を継続し図書室を利用し読書をする生徒数を増やしていくことが大切だと考える。そのためには、各対象校であらゆる学力・英語力レベルの生徒たちが図書室を気軽に利用し読書に親しめるように工夫していくことが今後の課題と考える。

SDGs の視点から

【目標 4. 3】当事業において、高校高学年用の英語の本や参考書も多数提供したことで、Matric（高校卒業・大学進学準備試験）を受験する 12 年生の生徒への力となり、対象高校全 4 校から合格者数の増加に貢献しているとのメッセージをもらった。

【目標 4. 6】読書習慣のない対象校で図書環境を整え、生徒の図書室や本への興味・関心を高めるような取り組みを行った結果、多くの生徒が積極的に読書をし、ブックレビューを書く経験を持つことで英語の基礎的な読み書き能力の向上につながった。

目標 4：図書委員会生徒はパソコン操作技術を習得し、それを図書運営に活用し、他の生徒たちに教えられようになる。

(1) 図書委員会生徒のパソコン基礎操作技術と指導力の習得

【成果】各校の図書委員会生徒がパソコンの基礎操作技術を習得し、図書室運営に活用できるようになる。また、他の生徒に指導できるようになり、全校でパソコン操作技術を習得する生徒が増える。

【指標】①各校の図書委員会生徒 8 名のうち 7 名以上がパソコン指導専門員による基礎技能テストに合格する（合格点 70%）。②図書委員会生徒が、図書室運営にパソコン操作技術を活用している。③各校の図書委員会生徒 8 人（全校 96 人）のうち 6 人（全校 72 人）以上の生徒が他の生徒に教えられようになる。④各校で指導を受けた全ての生徒のうち、70%以上が州教育省の認定するパソコン操作技能テストに合格する（合格点 70%）

① 対象校全 12 校のうち 8 校が 7 名以上合格した。8 名のうち 6 名のみの合格となった 2 校では、不合格だった生徒を対象に補習を行い、基礎技能の習得を確認した。他の 2 校はテスト実施時に転校・休業等で図書委員会生徒が 6 名体制

	で行われており、両校で6名中6名が合格した。 ② 書籍の受け入れ登録台帳作成と入力作業、図書委員会メンバー表作成、読書推進イベントのためのリサーチ、イベント案内作成等に活用された。 ③ 全対象校で69人が他生徒に教えられるようになった。全対象校のうち8校で図書委員会生徒8名中6名以上が他の生徒に教えられるようになった。8名中5名または4名のみが他の生徒に指導できるようになった学校では、不合格だった生徒が頻繁にパソコンを利用できるようにして、図書委員会メンバー間で教え合う経験を積ませた。 ④ 対象校のうち10校で、指導を受けた生徒の70%以上がパソコン操作技能テストに合格した。2校は64%の合格率となり、TAAA図書指導員は不合格だった生徒に対し再指導を行った。対象校全12校の平均合格率は90%となった。 (参考資料⑦参照) <u>SDGsの視点から</u> 【目標4.3】当事業のパソコン技術指導は、対象校の男子・女子生徒平等に行われ、彼ら／彼女らが将来高等教育を受ける際の必須技能の習得につながった。 【目標4.4】IT化が進む南ア社会において、パソコンの操作技術は様々な職業で必要とされている。IT技術を習得する機会がほとんどない対象地域において、当事業は生徒たちの将来の職業選択肢を広げる支援活動となった。 <特記事項>パソコン指導専門員は対象地域出身の若者で、熱意を持って指導にあたり、生徒たちのロールモデルとなった。若者の失業者が多くロールモデルが少ない対象地域において、指導専門員との出会いは生徒たちにとって大変貴重な経験となった。
(4) 持続発展性	① 事業で配備されたコンテナ図書室、図書室備品、蔵書、パソコンおよびプリンター等機材は、今後も各対象校の校長及び司書教師が責任をもって管理し、有効に利用されることが約束されている。万一、何らかの問題が生じた場合は、ドウエシューラ学区長の指導が入り解決していく。 ② 各対象校の図書委員会は年初に新メンバーを選定し、前年度からのメンバーが引継ぎ・指導をして活動を継続する。その際に図書室の管理・運営システムの見直しと改善を行う。 ③ 郡教育省 ELITS 地域担当者が対象校を訪問して図書活動のモニタリングを行う。また、ELITS 主催の研修会や読書推進イベントの情報提供も行う。 ④ 図書室の蔵書の補充については、郡教育省 ELITS が引き継いで行うが、TAAA から在庫がある限り ELITS に協力し、書籍の寄贈を継続して行う。 ⑤ 郡教育省 ELITS 地域担当者及びドウエシューラ学区長が他地域の学校長などに当事業の話をする中で、当事業への関心が高まっており、他地域からも図書活動へのサポートやアドバイスの依頼が入っている。TAAA は、当事業での経験や方法を様々な機会を作って発信、紹介することで、他地域の学校でも図書活動が進められるように協力していく。

【参考資料】

参考資料① 対象校別の成果・達成度一覧表

- 参考資料② ELITS（州教育省図書情報部門）担当員による事業評価表
- 参考資料③ TAAA 図書指導員による対象校図書委員会モニタリング評価表①
- 参考資料④ TAAA 図書指導員による対象校図書委員会モニタリング評価表②
- 参考資料⑤ TAAA 図書指導員による対象校図書委員会モニタリング評価表③
- 参考資料⑥ 対象校別 英語試験の達成度
- 参考資料⑦ パソコン専門指導員および TAAA 図書指導員による対象校図書委員会モニタリング評価表